



# AA日本ニューズレター

## No.195

### ■ 私たち AA の三つの遺産は、今年の評議会でもしっかりと息づいていました。

\* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \*

評議会(議事)担当・ゼネラルサービス常任理事 村川

今年も2月9日～11日に、幕張セミナーハウス(千葉県習志野市)に於いて AA 日本評議会が行われました。1996年に東京都江東区深川で第1回評議会が開かれてから今年で24回目の評議会となりました。

AA 共同創始者のビル・W は、もう一人の共同創始者ドクター・ボブが病に倒れ、それが致命的であるとわかったとき、AA の本部(後の常任理事会で、当時は全員ノンアルコール)と AA 本体(グループ)を結びつけていたのは、ドクター・ボブと自分だけであることに気づき、評議会機構を着想しました。(『A.A.成年に達する』P.315 参照)

\* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \*

そして、1951年に第1回の評議会が行われ、1955年セントルイスでの第5回評議会において、共同創始者や草創期のメンバーからそのリーダーシップと AA の三つの遺産(回復=12のステップ、一体性=12の伝統、サービス=12の概念)が AA 共同体全体に継承されました。AA は自分たちのことを自分たち自身で決められるようになり“成年に達した”と言えるのだと思います。

日本では、1995年に大宮ソニックシティ(埼玉県さいたま市)で開催された第4回全国代議員集会で、当時の JSO 所長山本氏(故・ノンアルコール)の「私の好みで、(AA 日本)の出版物が生まれていいのか？」の一言が決定打となり、AA 日本ゼネラルサービス機構の枠組みが発足しました。翌96年に第1回評議会が開催され、日本でも草創期のメンバーからリーダーシップが AA の共同体全体に継承されました。(『AA 日本 30周年記念誌』P.77 参照)

「私たちのリーダーは奉仕を任されたしもべであって、支配はしない」という「伝統2」が、私たちの“サービス”の基盤となっていることをよく表していると思います。

私の評議会の経験は、第16回評議会の地区報告会で、広報用DVDの作成過程で常任理事が不信任となったことが報告され、評議会では何が起きているのかに疑問を持ち、翌年の第17回評議会の見学に行ったのが始まりでした。

そして2年後、今度は評議員として第19・20回の評議会に参加しました。NPO 法人やアル法ネット賛同の是非などの議論が沸き起こった時期で、どうやったらストレスなくグループの良心が理事会に伝わるのか、私たちは苦しんでいるアルコールの為に何ができて何ができないのか、という議論の中で、サービス機構を通じたコミュニケーションの問題や外部との協力と AA の自立について真剣に議論しました。

そして、1年間の理事会委員を経て第23回評議会ではゼネラルサービス常任理事に信任していただき、今年の第24回評議会では

議事・JSO 担当の常任理事として参加させて頂きました。今年も熱い議論が様々に行われ、財政難の折、事業報告や計画、特に予算の審議などは評議員からの鋭い質問がいくつも出されました。「財政」の問題は、私の属する第1分科会(議事・企画・JSO)に於いても、全ての議題の底に流れる大きなテーマだったように感じました。より効率良く、効果的に情報を伝達するには、仲間の力をどうやって集約するか。優先順位は、等々…。

こうして振り返ってみるといつの評議会も賛否両論、論争の渦が巻き起こっています。しかし、パンフレットの『AA グループ』には、グループの中で数々の問題が起きるのは、メンバー間の異なる意見が、健康的な形で表明されていることであり、その問題のほとんどが12のステップと伝統、情報を伝えらえたグループの良心で解決できる。と書いてあります。様々な議論が起きるのは、日本の評議会が上手くいっている証とも言えそうです。

「私たちの仲間になってほしい。この霊的な共同体のなかで私たちはいつもあなたと共にある。あなたが幸せな運命への道をきりひらきながら一歩ずつ歩みを進めるとき、必ず私たちの仲間と出会うことだろう。その時まで、神の祝福と守りが、いつもあなたにありますように。」(『アルコールクス・アノニマス』P.240、第11章「未来への展望」より引用)。

『アルコールクス・アノニマス』が書かれた1939年、まだ AA メンバーが最初の100人だった頃。きっとどこかで苦しんでいるであろう、世界中の、そして未来のアルコールに向けた祈りです。ミーティングの最後に朗読するグループもあるようです。この祈りが日本にも届き、いま私たちはソーバー(飲まないで生きること)でいます。そのことに気が付いた時が、私の霊的な目覚めと言えるのかもかもしれません。この祈り(未来への展望)と黙想(=仲間の良心を聞くこと)が評議会の本質なのではないかと思っています。

そして、普段のメッセージ活動は過去苦しんでいた自分自身への、ゼネラルサービスの活動はAAを知らずに苦しんでいた頃の自分自身への、メッセージのようにも感じています。

私たちのAAの三つの遺産は、今年の評議会でもしっかりと息づいていました。AAメンバーの皆さん、詳しくは評議会報告書をご覧いただくか、「あなたの評議員」に是非尋ねてみてください。

(評議会の役割については、『サービスマニュアル』P.42～43、「評議会は何故必要なのか?」に、アメリカ・カナダのノンアルコール(A類)常任理事バーナード・スミス氏の発言が掲載されています。私たちの愛とサービスの本質を過不足なく表現している、素敵な解答となっていますので、是非ご一読ください。)

## ■ WSM評議員より ～\* 国際協力献金のお願い

\*-+-\*-+-\*-+-\*-+-\*-+-\*-+-\*-+-\*-+-\*-+-\*-+-\*-+-\*

### ワールド・サービスミーティング(WSM)評議員 星

今年もまた、AAが誕生した記念日である6月10日をはさんだ前後二週間を「国際協力献金」呼びかけ期間として、各グループなどでの取り組みをお願いいたしたく、ご協力を願います。

献金方法は、通常のJSOへの振込用紙を用いて、下記必要事項を記入の上、皆様の良心からの献金をお願いいたします。なお国際協力献金は上記の期間に限らず通年で受け付けています。

郵便局振替口座

口座番号: 00180-0-68876

加入者名: AA・JSO

献金区分: その他

通信欄: 「2019国際協力献金/グループ名」と明記

2018年度の場合、日本国内で皆様からいただいた国際協力献金¥789,161は以下の使途で支出されました。(残金は仮受金として繰越します)

✓ニューヨーク国際出版基金へ送金…3,000米ドル(日本円¥340,500) ✓AOSM(アジア/オセアニア・サービスミーティング)事務局へ献金…¥100,001(端数は為替処理の都合です) ✓第25回WSM通訳者費用(南アフリカ開催)…¥547,348 ✓第22回WSM報告書発行…¥265,680 ✓国際協力委員会活動費…¥7,034 ✓合計…¥1,260,563(不足分は前年度の仮受金から支出しました)

南アフリカで開催されたWSMでの参加費用は基本的にWSM評議員の分のみゼネラルサービス予算で組んでいましたが、2018年は通訳者分としてこの国際協力献金より補填させていただきました。

本年7月には香港でアジア・オセアニア・サービス・ミーティングが開催されます。日本から2名のWSM評議員が参加するのは、2011年以来、実に8年ぶりとなります。献金はこの経費の一部にも充当させていただきます。予定です。

## ■ 地域評議員より ～\* 第24回評議会を終えて

\*-+-\*-+-\*-+-\*-+-\*-+-\*-+-\*-+-\*-+-\*-+-\*-+-\*-+-\*

### ■ AAの存続と発展を願って

#### 第1分科会議長 関東甲信越地域/前期評議員 郷

関東甲信越地域選出前期評議員の郷と申します。にし城西地区の荻窪グループに所属しています。

私はかつてアルコール地獄で苦しんでいた頃、一般の書籍でAAを知りました。インターネットも今ほど普及していなかった時代でしたので、アルコール専門病院に関わっていなかった私にとって、その本を手にしなかったら今日の命はなかったかもしれません。

AAに来たばかりの頃、その運営のしくみや広報、メッセージの内容など知る由もありませんでした。しかしそのような活動のおかげで書籍にAAが紹介されて助けられたわけです。

スリップを経験し、現在のソーバー(飲まないで生きること)になってから10年がすぎました。その間様々なサービス活動に関わらせていただき、AAのことが徐々に分かるようになると共に自分も積極的に参画していこうという意欲が高まってきました。その間、評議会へもオブザーバーとして何回か参加しました。

今年から評議員の役割をいただき、第1分科会(議事・企画・JSO)の担当になりました。分科会の中で副議長を決める時、立候補者が2名いてAAの第三レガシー手続きとなり、当選させていただいたことに感謝しています。

第1分科会議長は運営会議、合同会議への参加もあり、しもべとしてお役に立てる機会が多いと感じています。

第24回評議会を振り返ってみて、AAの良心が随所に沸き起こっていると感じました。私は300名規模の関東甲信越地域集会議長を経験したこともあり、全体会議の中では議事の進行に気を配りすぎて発言が遠慮がちになったかと感じました。しかし本当に発言したいことは言えたと、そうでないことも他の評議員が代弁してくれたと感じています。

AAの存続と発展は、私たち一人一人に委ねられていると思います。全体の一部として、共通の目的に向けて進んでいくことが大切です。

私は今与えられた役割の中でそのことを神に祈り、何をすべきかを日々探し求め、実行していきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

### ■ 今日から始まる

#### 第2分科会議長 関東甲信越地域/前期評議員 清水

3日間にわたり、たくさんの予定が組まれた評議会のプログラム。開会時、やや緊張気味でしたが自己紹介の2分間スピーチで気持ちは和らぎました。自分の言葉で話せばいい。評議会といえどもここはAAなのだからという仲間の言葉を思い出し、ならばと、ふだんと変わらぬ姿勢で、能う限り質問もし、議題にも取り組んできました…このように地域の仲間に報告できる評議会参加だったと思います。

事前に行われたくじ引きで、担当は第2分科会(広報/病院施設・矯正)となりました。私はここ数年、地域で広報委員会の活動に関わってきましたが、評議会でも同分野が含まれる分科会に配属させていただくことになったのはまさにハイヤーパワーの配慮ではないかと、仲間にも言われましたが自分でも驚いています。

第2分科会では提出された議題すべてを審議できました。分科会内の議題であっても内容は幅広いものでしたが AA 日本として基本の方針はどのようであるべきかという視点で皆さん発言されていたと思います。4 時間という長丁場でしたがほとんど休憩をとらず話し合いは続けられました。私も会議に集中していて、あつという間に終わってしまったという感じです。

分科会から全体会への報告・審議要請の際には分科会議長の計らいで、副議長として同席させていただき、流れを経験できました。来年もこれに習いたいと思っています。

ボランティアスタッフの的確なサポートもすばらしく、オブザーバーは心の支えでもありで、つまり評議会はその場にいる全員、そして献金を寄せてくださった日本の AA メンバー皆によって成り立っているということ、身を持って実感いたしました。

結果を持って地域に戻りますが、これが始まりです。どの議題も私たちの目的にとっては完結ということはなく、より良くなるように新たな議題を生むでしょう。地域の仲間と協働し活動を進める。それが私たちの責任だと思っています。

### ■ 最善を目指す」という言葉も、胸に深く刻まれています。

#### 第3分科会議長 北海道地域/前期評議員 佐藤

昨年の北海道地域集会で前期評議員に立候補して信任を受け、前期評議員として第 24 回評議会に送り出していただきました。

担当は第3分科会(財務・出版・BOX-916・国際協力)となり、多くの提出された議案を、ひとつひとつ真剣に丁寧に、検討していく場所に自分が居られることに大きな喜びと、同時に不安と恐れが入り混じった複雑な心境でした。

北海道地域でも「サービスのやり手が少ない」という共通の課題があります。評議員も例外ではなく、毎年選出に苦労しています。以前は評議員に選出されても評議会では「個」の力で意見を述べ、討議していたのだと聞きます。それでは、あまりにも荷が重すぎる。今回は、昨年同様に議案検討会を開催してもらい北海道地域の良心をもって評議会に参加させていただくことができました。

二泊三日の期間中、ホテルに缶詰めで審議に集中し、合間を縫ってのフェローシップで交流を深めさせていただきました。各地域の評議員の方々とは分かち合えた経験を、地元を持ち帰り、今後の活動に役立てていこうと思います。

出戻りで AA に繋がったばかりの頃は、また飲んでしまうことが怖くて、がむしゃらに「今日一日」を生きていました。ホームグループのミーティングは週 2 回しかないの、遠くのミーティングに参加したり、と

にかく必死だったことを思い出します。グループでサービスのことを話し合うミーティングにも、話される言葉や内容が意味不明でも真剣に参加していました。「何か分からないことがあったら、気楽に質問してください」と言われても、自分でも「何が分からないかが分からない」状態でした。グループのサービスから始め、代議員、地域のイベントの実行委員なども、先行く仲間の助言で経験させてもらいました。

サービス活動をしていると、自分の欠点(弱さ、経験のなさからの恐れ、人前で大物を演じたがる)などが露呈してしまいます。認められたいが為に、自分の手柄にしたくて抱え込んだりもします。

スポンサーとの話の中で、「サービス活動は、AA プログラムの実践にほかならない」と言われたことを思い出します。みんなの為だと言いながら、ひとりよがりになったり…。また、「ただの善じゃなく、最善を目指す」という言葉も、胸に深く刻まれています。

一見、良かれと思われる事柄も、今の状況での『最善』を目指すことの大切さを、何度も繰り返し伝えてくれました。アルコールに囚われ、身動きが取れなくなり、それでも自分は AA に繋がることのできたので、今こうしてここに居ます。

そして、評議会の 3 日間はあつという間に過ぎ、地元のメンバーにこの素晴らしい経験を伝える責務を重く捉えながら帰路につきました。

■ 各地域より ~\* OSM(オープンスピーカーズミーティング)等、AAのイベントを複数のグループや地区で主催した経験を分かち合っていたいただきました。今号と次号に分けて掲載します。(JSO 到着順)

\* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \* - + - \*

### ■ 3月3日(日)/(長野)OSM in 諏訪

~\* 仲間 ~出合いを重ねて

#### 諏訪グループ りゅう

この日のために諏訪グループを中心にして OSM 実行委員会を結成し、諏訪グループのミーティングの前にテーマ、スピーカー、関係者の方のお話等について検討を重ねて参りました。

検討の結果、テーマは「仲間～出合いを重ねて」に決定し、日程等も先に書いたように決まりました。早速、チラシを作り仲間に依頼し県内はもとより、地域委員会、地域集会に於いて配りました。また、関係者(医療機関、保健福祉事務所、新聞社等)に案内状を送りました。

関係者に案内状を送った果実として、信濃毎日新聞社様より問い合わせがあり、告知文を 2 月 22 日の朝刊に載せていただきました。その告知文を見た家族の方から問い合わせがあり、関係者とのつながりは大切だなあ、と感じました。関係者の話もメッセージ先の病院の臨床心理士の先生にお願いすることができました。

長野県の 3 月は、例年はまだ残雪があり寒いのですが、ここのところ温かく、残雪はありませんでした。しかし、この日は雨が降り肌寒く、お借りした会場も古かったので、空調がうまくいかず、ご来場して

いただいた仲間、関係者の方々には寒い思いをさせていただきました。

OSMは120名収容の会場で行いました。満員とはいきませんが、他地区からもご来場いただき、10名(スピーカーは初めてという仲間もいました。)の仲間の話と関係者の話を聞いていただきました。関係者の方も4名ご来場していただきました。最後に握手をしていただき、ありがたかったです。

#### ■ 2月11日(月・祝)/(群馬)第2回OSM&伝統スタディ ～\* グループ合同でセミナーを行う意味

#### 4グループ合同実行委員会

OSMは4グループのなかまの『なかまと共に』をテーマとした経験の話、伝統セミナーはサービス経験の長いなかまをお招きしての伝統についてのお話と小グループに分かれてのグループワーク、そしてそれを受けての長いなかまの経験に基づくアドバイスといった内容でした。80名近いなかまの参加と地元の保健所やこころの健康センター、市役所、医療機関から8名のAAの友人の参加をいただくことができました。

ここでは中身というより、複数のグループが合同でセミナーを行うことについての意味について論考してみたいと思います。

①単独ではセミナーが開けないような小さなグループでも合同で行うことで開催できる(担い手の数や資金面などで)②そのことによって小さなグループでもなかまと協力してひとつのイベントを作り上げていくという経験を持てる(これは私たちの病気の特徴である性格上の様々な欠点の修正に役立つ)③同時にグループが成長していく糧を得ることができる④広いエリアにまたがるために多くのなかまに参加の呼びかけができる⑤単独に比べて広い範囲の関係機関に広報ができる⑥実行委員会を進める中で構成グループが緊密となりAAとしての一体性が強化される。

実行後に振り返りの実行委員会も開きましたが、これといって課題はありませんでした。しいて言えば、集まるのに少し手間がかかりますので私たちの場合は少し工夫をし、実行委員会をミーティングの終了後30分位に絞って行っています。こうするとミーティングに参加できる楽しみもあります！

また年ごとに輪番で事務局を担当するグループが原案を用意して、それを叩き台として話し合います。これでかなり効率が良くなります。また実行委員にはグループから、いわゆる「決定権」が与えられていますので、重要なこと以外は実行員会で決めています。

去年は「概念」を今年は「伝統」のスタディを行いましたので、来年は「ステップ」のスタディを予定しています。半年位前に、実行委員会を立ち上げています。

いいことばかりの合同セミナー。特に私たちのような人数の少ないグループにはお勧めです。

#### ■ 1月13日(日)/(宮城)第10回新年の集い

～\* 10周年!まだまだこれから～猪突猛進、言われてなんぼ!～

#### 元寺G たえこ&宮城はまなす G ハルミ

宮城で「AA新年の集い」が発足して10周年を迎えた。発足当時の大風作りでは、様々な年代のメンバーがセンターのグラウンドで一生懸命大風上げに挑戦していた姿は忘れられない。(この大風は数センチしか上がらなかったと記憶している。)

「AA新年の集い」はアルコールなしの安全な「新年会」。発足当初の、昔ながらの杵と臼との餅つきが懐かしい。餅つきはやらなくなったが、仲間が作るごちそうを楽しみに毎年参加している仲間も多い。

今回の企画で斬新と思ったのは新しい仲間の提案で「似顔絵コーナー」を採用したこと。私は「アノニマス」だから作品の扱いは慎重にしなければならなかったと思ったが、新しい仲間のチャレンジを応援したくなり、一緒に似顔絵を描いた。すると、思った以上に好評で、企画を提案した仲間も参加した仲間も喜んでくれて本当に良かった。このようなイベントはどんな形であっても継続していきたいと思っている。

このイベントは10年前に複数のグループが合同で立ち上げ、その後、元寺Gメンバーが主に音頭をとり「実行委員会」で開催する方法に形を変えて続けている。グループの垣根を越えて「一緒にやりたい」仲間は対等な立場で誰でも参加できるのが最大の特徴だ。しかし「実行委員会」にこだわりを持ちイベントを開催することに対し、昨今は様々な厳しい意見もいただいた。

今回の実行委員会では、その事に正面から向き合い、話し合いを重ねてきた。先に触れたような楽しい企画を考えると同時に、課題に向き合うことは、時間的にも精神的にも厳しい作業だったが、試練を乗り越えて当日を迎えられたのは大きな恵みだった。AAは飲んで逃げてきた事をシラフで全部経験させてくれる場なんだなあ…と痛感、けれども、言われてなんぼ。まだまだこれから。のテーマの如く、めげずに続けていきたいと思う。この場を必要としてくれる仲間と自分達のために。

編集：ニューズレター編集委員会・発行：NPO法人AA日本ゼネラルサービス

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> [jso-1@fol.hi-ho.ne.jp](mailto:jso-1@fol.hi-ho.ne.jp)

(月～金)10:00～18:00 (土・日・祝) 休